

(公開用)

第3回 飯山市未来の保育検討会 会議録（要旨）

開催日時 令和6年12月20日（金） 午後2時00分～

場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室

出席人数 委 員：17名（4名欠席）
 事務局： 5名

飯山市の保育環境に関する報告書（素案）について

事務局：（説明）

会長：今説明のあった「検討内容のまとめ」について、質問・意見等あればお願いします。

では、今後の協議の進め方を変更し、全体での意見交換ではなく、3つの班に分かれて議論を進めることにします。本日は、配布資料の名簿に記載された番号ごとに班を分け、30分間話し合いを行ってください。各班の座長が進行を担当し、どなたか園長先生が書記を務め、最後に全体会で発表を行う。議論のテーマは「飯山市の未来の保育」であり、特に10年から25年後の保育の在り方に焦点を当てることとします。各座長は円滑な進行をお願いします。

【1 班】

1. 統合の必要性と方向性

現状の素案には「統合」の言葉が含まれていないが、明確に示すことで意見が出やすくなるのではないかと。地域の拠点としての役割を考えつつ、統合によるメリットを検討すべきでは。貴重な資産が分散するよりも、統合した方が有効活用できるのでは。現存する保育園を活用しながら統合を進めるのがよい。統合を考えたとき木島・瑞穂地区は、保護者が予想しにくい位置にある。

2. 保育の質と環境について

飯山市は配慮を必要とする子どもに対して手厚い保育を提供していると感じる。子どもの成長を考えると、大きな集団の中で育つことが重要。同年齢クラスの方が望ましいのではないかと。柏崎の保育園を視察したことがあり立派な施設だったが、震災被害があった。飯山市の保育園の安全性が心配。子どもの命を最優先に考え、安全面を重視した整備が必要。保育園に看護師を配置することも検討すべき。

3. 統合後の地域への配慮

木島平村のおひさま保育園を見学・視察し、写真や動画で委員へ紹介してほしい。統合後、保育園がなくなった地域には、行事（遠足・やきいも会など）で訪れ、地域とのつながりを維持する。保育園の跡地を公園や子どもが遊べる場所（集まれる場所）として活用することで、地域を元気にする。

【2 班】

1. 現状と課題

飯山市には待機児童はいないが、そもそも子どもの数が少ない。現状維持ではなく、先進的な取り組みが求められる。公立保育園での0歳児受け入れの必要性がある。

移住者・働く親のニーズ

移住者にとって保育環境が重要（共働きで仕事を辞めてUターンした事例あり）。

「もう一人子どもを」と考える家庭にとっても、預け先の確保が重要。保育時間の拡充（標準19時まで、朝も早くから）を求める声がある。

2. 保育園の施設・環境

建物が古い問題は以前から指摘されているが、なぜ改善されないのか。統合により通園距離が長くなるデメリットがあるが、大規模化のメリットも存在。新しい施設の魅力と、保護者・子どもの利便性をどう優先するかが課題。

4. 保育方針の方向性

異年齢クラスの導入が必要か（子どもが増えない前提での対応）。小規模園を維持するか、統合して大規模園とするか。小学校入学前にある程度の集団生活を経験させるべきとの意見あり。統合により大規模園ならではの教育的メリット（集団生活の質向上）も期待できる。

5. 今後の検討事項

最優先事項を何にするのか（保護者の利便性 or 子どもの環境）。保育士の人材確保が必要。統合により可能になる新たな取り組みの検討。仕事を辞めずに済む環境整備の必要性。

【3 班】

1. 保育人材の確保を課題（素案）に加えてはどうか

保育士の確保ができれば、解決できる事がいくつかあると思う。しかしながら、飯山市の保育に携わりたい人は減っている。

〈理由〉

- ・資格はあっても働き方が自身のニーズに条件が合わない（子育てしながらの働き方、就労の時間帯等）
- ・保育職場のハードルが高い（保護者ニーズの増大、命を預かる責任の重さ等）

〈情報提供〉

- ・民間委託が増えてきている状況があるが、飯山市は公立として運営している。保育士は県外からの求人も多く、全国で争奪戦になっている。
- ・他市町村（長野市）の養成校の中には、1年次から大型施設を会場に説明会を開催したり園見学を実施したりしている学校もある。

〈人材確保のために求められる事〉…素案に盛り込む

- ・飯山市に携わる魅力の開発
- ・保育士として働きたい人のニーズに合わせた雇用条件の拡充

2. 児童クラブと保育園の隣接

- ・今後、城北小学校の児童クラブと保育園との行き来（迎え）に距離があり、両方を迎えに行くとすると仕事を今より早く切り上げないと間に合わない等、時間的にも不都合が出てくるとされる。もし、将来的に保育園も統合するのであれば、城北小学校と統合保育園（新設）は隣接しているのが望ましいと思う。

3. 一定人数の子どもがークラスにいることが理想的、必要性を感じる＝「子どもの年齢発達の保障」
- ・異年齢・混合クラスの良さもあるが、保育士不足を解消するための混合保育であっては子どもの発達の保障という観点から意味が違う。
 - ・子どもの一年の年齢差・発達差は大きい。
 - ・統合一年目の小学校就学に向けて思うこととして、少人数で手厚い園生活も良いが、4月からいきなり大人数の中での生活になることに対しては、子どもも親も不安が大きい。

会 長：皆さんお疲れ様でした。これから報告いただきますが、各班のその前に事務局からお願いします。

事務局：本日欠席の公立保育園の保護者の方から、ご意見をいただきました。

「保育士の方々には、子どもの命を預かるという重要な仕事をさせていただいており、感謝の気持ちしかありません。また、保育士の減少という現状を踏まえ、業務の大変さを考えると、お給料の増額をお願いしたい」というご意見をいただきました。貴重なご意見をありがとうございます。

会 長：はい、ありがとうございました。それでは、各班で出た意見を二、三分にまとめて、発表してください。1班からよろしくお願いします。

1 班：保護者の方から、保育園の「統合」について検討すべきではないかというご意見をいただきました。現状では「統合」という言葉が出ていないため、議論を深めるためにも明確に打ち出した方がよいのでは、とのこと。主な意見は以下の通りです。

- ① 貴重な資産の分散を防ぐためにも、既存の保育園を活用しながら統合を進めるべきではないか。木島・瑞穂地区は統合を考えた場合、統合先が課題となる。
- ② 子どもの出生数が減少している中で、飯山市の保育環境への不安がある。特に、子どもの成長を考えたときに、大きな保育集団で育つことも重要ではないか。
- ③ 施設の安全性に関する懸念。柏崎の保育園を視察した際、飯山市の保育園より立派な設備が整っていた。地震や災害時において、飯山市の保育園の安全性は十分か。また、看護師の配置も必要ではないか。
- ④ 統合に向けての情報共有。木島平おひさま保育園の見学や、写真・動画を活用して情報を共有し、意見を集めるのもよいのでは。
- ⑤ 統合のメリット・デメリットを明確に示し、意見を出しやすくすべき。また、安全面を考慮した立地選定（地震や水害のリスク、救急車のアクセスなど）を進める必要がある。
- ⑥ 統合後、保育園がなくなる地域への配慮として遠足や行事などを通じて子どもたちが地域へ出向く機会を作る。跡地を公園や子どもが遊べる場所として活用してほしい。

以上の意見が出されました。

(公開用)

会 長： はい、ありがとうございました。それでは2班お願いします。

2 班： 移住者の方を含め、今後の移住やUターン・Iターンを促進するためにも、魅力的な保育環境を整えることが重要ではないか、という意見が出ました。主な意見は以下の通りです。

- ① 保育園の建物の老朽化 については、以前から指摘されているが改善されていないため、早急に対応が必要ではないか。
- ② 大規模化の利点について、素案にも記載がありメリットが多いと感じる。
- ③ 利便性向上の要望。保育時間の延長など、今後の運営において利便性を考慮してほしい。
- ④ 子どもの成長を考えた環境づくりとして、ある程度の規模の集団生活を経験してから小学校に進学することが望ましいとの意見があった。大きな集団の中で子どもの力を伸ばす環境を整えることが重要ではないか。

以上の意見が出されました。

会 長： はい、ありがとうございました。3班お願いします。

事務局： 3班では、主に4つの点について意見が出されました。

① 保育士の確保について

保育士の確保が課題であり、これが解決できれば飯山市の保育環境の改善につながるのではないか。保育士資格があっても、家庭状況や雇用条件が合わず、飯山市での就業をためらう人がいる。働きたい人のニーズに合わせた雇用条件（短時間勤務や子育てと両立しやすい働き方など）の設定が必要ではないか。他市町村では、保育士養成校の1年生の段階から説明会や施設見学を実施し、人材確保に努めている例もある。飯山市でもこうした取り組みが必要ではないか。全国的に保育士の求人が多く、争奪戦になっている現状を踏まえ、柔軟な雇用形態を整えるべきではないか。

② 保育の職場環境について

保護者ニーズの高まりや、子どもの命を預かる責任の重さから、保育現場の負担が増している。働き方改革を進めることで、保育士の雇用促進につながるのではないか、という意見が出た。

③ 児童クラブと保育園の距離について

現在、児童クラブは小学校や保育園に隣接しているため、利便性が高い。来年度から城北小学校が統合されるが、もし将来的に保育園も統合するのであれば、統合園と城北小学校が隣接しているのが望ましい。統合園と小学校の距離が離れると、保護者の負担が大きくなるため、その点も考慮すべきとの意見があった。

④ クラスの人数と子どもの発達について

1クラスの子どもの数は一定数以上確保することが理想的ではないか。年齢差や発達差を考えると、少人数すぎるよりも、ある程度の集団の中で育つ方が望ましい。保育士の配置を考える上でも、一定数の子どもがいるクラスの方が適切な発達支援ができる。小学校進学時の不安について、保育園では少人数で手厚い保育を受けていた子どもが、小学校入学後にいきなり大規模な集

(公開用)

団に入ること、不安を感じるケースもある。そのため、ある程度の集団生活を経験できる環境づくりが大切ではないか。

以上のような意見が出ました。

会 長：ありがとうございます。各班から多様な意見が出されました。事務局で本日の意見を整理し、次回の会議へ反映する予定ですが、この内容で大丈夫かどうか、改めて確認させていただきます。もし、「これだけは伝えたい」「言い忘れたけれど重要な点がある」ということがあれば、今のうちに出していただけると助かります。また、全体的に共通して出ている課題やポイントを整理し、優先的に検討すべき事項を明確にしておくことも大事かと思います。何か補足や追加の意見があれば、ぜひお願いします。

委 員：ある委員から出された意見として、報告書の素案（3 ページ）にある「飯山市は待機児童がいない」という記述について、表現の見直しが必要ではないかという指摘がありました。「待機児童がいない」というのは良いことではあるが、その背景には子どもの数が少ないという現状がある。単に「待機児童がいない＝安心・安全」ではなく、その裏側にある問題（園児数の減少や小規模園の増加など）も踏まえた記述にすべきではないか。現実を正しく捉えた上で議論を進めることが、より良い方向性を見出すために重要であり、委員から「文章表現をこうしてほしい」との具体的な指示はなかったものの、現状を正確に反映し、より本質的な課題が伝わる表現へ修正すべきではないかという意見として受け止めました。

会 長：1 班では公立保育園の統合について多くの意見が出されましたが、幼稚園の先生方や、私立保育園の先生方の視点からも、一言ずつご意見をいただければと思います。

委 員：私立保育園の先生との冗談交じりの話の中で、統合の方向性として「認定こども園」の形が適しているのではないかという意見が出ました。国の方針として認定こども園が進められている中で、1 号認定（幼稚園）、2 号・3 号認定（保育園）の子どもたちが同じ環境で育つことが望ましいのではないかと。ただし、私立園が認定こども園へ移行するには、国の基準は低くても、実際にはハードルが高い。という課題がある。また、現在の幼稚園の運営に関して、1 号認定と新 2 号認定の子どもたちは受け入れているが、2 歳以下の子どもたちは「認可外保育施設」として預かっている。認可外のため補助金がなく、運営の負担が大きい。2 歳児の受け入れをどう進めていくかが課題であり、公立保育園の在り方によっては私立園の役割も考えていく必要がある。私立保育園では 6 か月から子どもを預かる環境が整っているが、公立が統合・強化されることで、私立園の役割も改めて考えなければならないという認識でいます。

委 員：幼稚園の先生とも話していて、幼稚園と一緒に「認定こども園」の形で運営するのが望ましいのではないかという意見がありました。ただし、現実的にはハードルも高いと思っています。また、年齢に合った保育の重要性についても、異年齢保育の良さもあるが、年齢ごとの成長に応じた保育も重要である。統合にはメリットがあるが、小規模園にも良い点があり、一概にどちら

(公開用)

が良いとは言えない。しかし、保育士の質の向上が最も重要だと感じています。近年の保育関連のニュースを見ても、保育士の学びの重要性を強く感じる。保育士の質を高めなければ、良い保育の実現は難しい。建物の新しさや施設の充実も大事だが、それ以上に「良い保育」ができるかどうかが重要。今後の方向性を考える上で、単に施設の統合や建物の改善だけでなく、保育士の育成や質の向上にも重点を置くべきではないかと思います。

会 長：本日は、各班や先生方から多様な意見をいただきました。改めて、皆さまの貴重なご意見に感謝いたします。最後に、最近の新聞記事（信濃毎日新聞）のなかで、保育園や幼稚園に3歳未満児を預けた子どもの発達についての調査結果が掲載されており、家庭で育てるよりも発達がしっかりしているという報告がありました。以前は「3歳までは家庭で育てるのが望ましい」とされていたが、その考えが変わってきています。ただし、重要なのは「単に預けること」ではなく、保育の質が子どもの発達に大きく影響するという点であります。保育の質を高めることが、子どもたちの心や知的な発達に関わるという視点を持ちながら、今後の保育環境について考えるべきだと感じながら読ませていただきました。最後にそんな意見を言わせてもらって、事務局の方へお返ししたいと思います。

委 員：報告書の素案（4ページ）の「保育提供体制の方向性」に「統合」という言葉が入っていません。しかし、1グループでは統合について多くの意見が出ました。2グループも「大きな保育集団」という表現を使っており、統合を前提にした発言があった。保護者の意見も統合を意識しているように感じられるため、報告書の素案の文章にも「統合」という言葉を含めるべきではないかと思いました。皆さんはどう思いますか。

会 長：1班は、委員の方からどこにも統合という言葉が出てないということで、その委員の方の意見から話し合いは始まりました。

委 員：1班の委員ですが、私の方から統合についての話を中心で議論させていただきました。私も全く今の委員さんと同じことを思いまして、議論を明確に進めるため「統合」という言葉を中心に捉えるべきだと考え、意見を述べました。抽象的な表現では議論が曖昧になるため、一つの案として統合を前提にし、必要に応じて追加の要素を加えていく形が望ましいと提案しました。

委 員：皆さんどうでしょう。統合という言葉をもとに位置づけることで、議論の方向性が決まり、大きな意味を持つ。入れるか入れないかが重要な選択であり、その点について意見が出されたと思うのですが。

委 員：これまでの課題や今後の方向性を考えると、統合しないと解決しない問題もあります。一方で、統合が必ずしも最善でないという意見もありますが、解決策の一つとして統合の案は必要だと考えました。統合による課題についても、対応策がある程度示されれば、今後の議論がしやすくなり、要望も出しやすくなるため、統合せず現状維持が良い場合も、継続による課題を明確に

(公開用)

することで議論が進めやすくなります。ただ、私は統合が必要だと考えたため、今回この意見を言わせていただきました。

会 長：ありがとうございました。

委 員：この素案をどういう形で残していくかは、とても大事なことだと思います。委員の皆さんも、個人の意見として発言を控えられた部分があったかもしれませんが、グループ討議の内容を聞いていると、どの班でも「統合」という言葉こそ使っていなくても、方向性としてはそこにまとまっていくような話し合いになっていたように感じました。そういう意味でも、今日の会議の成果として、この素案にその点を加えるのは大きな一歩になるのではないのでしょうか。

会 長：皆さん、どうでしょうか。1班としては、委員さんが最初に「統合」という話を切り出してくださり、その課題について議論を進めました。結果として、ほとんどの意見が統合に賛成という方向でまとまっていったと思います。他の班の皆さんは、どのような意見が出ましたか

委 員：3班です。私たちの班でも「統合」という言葉自体は出ませんでした。話し合いの中で「一定数の子どもがいた方が、集団としての活動がしやすい」という意見が出ていました。そういう意味では、他の班とも考えは同じだと思います。

会 長：ありがとうございました。事務局の方で、これから素案に今回の話し合いの内容を付け加えていくということよろしいでしょうか。今の議論を踏まえて、その方向で進めていく形でよろしいですか。

委 員：ありがとうございます。

会 長：やはり、グループで話し合いをしたのは良かったですね。全体での議論とは違って、いろいろな意見が出たり、議論が深まったりして、とても有意義だったと思います。皆さん、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局：長時間にわたり、熱心なご議論をいただき、本当にお疲れ様でした。また、貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。次第に沿って進めますと、次は「その他」ですが、次回の会議では報告書を完成させたいと考えております。つきましては、2月中の開催を予定したいのですが、いかがでしょうか。時間については、今日と同じ午後2時からを考えておりますので、可能な限りご都合を合わせていただければと思います。詳細につきましては、事務局で調整のうえ、改めてご案内させていただきます。それでは、全体を通して、委員の皆さんから何かご意見やご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

本日は長時間にわたり、大変ありがとうございました。これをもちまして、第3回飯山市未来の保育検討会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。